

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401780		
法人名	有限会社 くらはら		
事業所名	グループホームあざみの里 本館		
所在地	〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊3124-3		
自己評価作成日	平成22年1月30日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(本館) ・利用者の状態、状況に応じた生活支援を行い、一人ひとりが持てる能力を、可能な限り導く自立支援と、利用者の尊厳と、尊重の思いで接し、家族のような和気藹々とした雰囲気、安心・安全に毎日を暮らされるよう支援している。 ・事業所の理念である「一人ひとりに時間をかけて暖かく見守り、声かけて付き添う。拘束のない介護。個人生活の継続」 ・地域の中でいつでも立ち寄れる開かれた施設作りを目指しています。 (新館) ・利用者の健康管理に注意し、転倒防止と病気の早期発見を心がけています。 ・利用者がその人らしく、自由な生活ができる様に援助しています。 ・ご家族の方が面会に来やすい雰囲気作りを努めています。
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月23日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周辺は広々としており、直ぐ上には桜並木があり、眼下には有明海が一望でき、開放的である。玄関周辺には綺麗に花を育て、ホーム内も季節の花やお雛様の段飾りを置き、華やかで気分が明るくなる取り組みに尽力されている。2ユニットで18名の内、開設以来から9名の利用者が元気に生活されており、職員の離職も少なく、一つの家族のように日々過ごされている。近くの小学校との交流や開設祭・敬老会には地域の人が参加され、年々地域との交流を深めている。母体にスーパーマーケットを有している事から「食」には重点を置き、旬の食材を美味しく、その人の状態に合わせて提供する事に注意を払っている。職員は常に利用者を自分に置き換え「私だったらこうして欲しい」を原点として、ケアの実践に努めており、明るく元気に笑顔で接しており、利用者も理解してか表情が明るく、此処で安心して過ごされており、関係を継続しながら今後の取り組みが期待できるホームである。
---

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内に提示してある。職員は理念を共有し、実践に向けて日々の生活支援につなげている。	理念を週一回の朝礼で話し、共有に繋げている。職員は、自分に置き換え、どの様に支援して欲しいかを念頭に、利用者個々の生活やペースを尊重し、日々実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入しており、回覧板が回ってくる。地域の清掃や、行事には参加している。地域の小、中学校とも交流し、学校行事に招かれたり、当施設の行事には来荘され交流している。	地域の金毘羅祭りのお誘いや、母体のスーパーに立ち寄る神輿を見に行く事がある。また、地域のボランティア(太鼓の演奏や踊り等)の受託や、ホームで開催する開設祭・敬老会には地域の人を招待し参加者があり、交流が出来る。ホームの周辺を散歩する人とは気軽に話をする等、あたり前のようにお付き合いをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも立ち寄れる開かれた施設作りを目指し、地域運営推進会議のメンバーでもある、地域住民の人々に向けて、認知症の利用者の理解や支援の方法を、共に支え合い活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域運営推進会議を開催している。2ヶ月間の利用者の状況の報告し、参加者に意見や評価をして頂き、今後の対応や、支援サービス向上に活かしている。	運営推進会議のメンバー構成は多様に富み、利用者も参加している。家族から消防や事故に関する意見や指導を仰ぎ、モニターとしての役割を担って頂いている。また、市町村の担当者には質問ができる関係で、運営に反映する等、運営推進会議を開催する事で、理解と向上に繋げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の社会福祉協議会主催で、地区の懇談会に参加し、高齢者や障害者が、日常生活の様々な問題等を話し合う機会に参加をして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	公共職業安定所の実習型雇用を利用し、職員を養成している。また、島原病院の研修の受講等、公的機関との交流に努めている。運営推進会議を通し、市町村とは顔馴染みになり、相談や指導が仰げる馴染みの関係に向け取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全ての職員が「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、日中は玄関に施錠はせず、自由に入りが出来るケアに取り組んでいる。	ホームは開放的で、利用者は広い庭や廊下を自由に行き来し生活している。身体拘束に関する勉強をし、職員間での共有に努め、声掛けには注意を払っている。現在転落防止のため4点柵(夜間のみ)の実施があり家族の了解を得ている。	利用者の身体の安全のために現在一名が夜間のみ四点柵を設置している。家族には口頭で説明を行なっているが、書面による同意と経過観察と検討会議等の書類を作成し、チェックしながら実施される事を期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について絶対にしてはならない行為であることを、職員会議や、機会がある度に話し合い、見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護事業や成年後見制度の研修を受講し、職員会議で資料を配布し、理解を学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者が入居時に、重要事項説明書で契約内容を十分に説明を行い、利用者や家族の不安や、疑問を尋ねて、説明と理解、納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との信頼関係を構築できる様心がけ、意見、要望等、外部者へ表せる機会を設け、謙虚にそれらを運営に反映させている。	利用者は不安や心配事を職員に話し、安心へ繋げている。家族は面会者が多く、ホームからは年二回あざみの里便りと、手紙・写真・電話で生活をお知らせしている。利用者が帰宅しお世話して、家族は日頃の職員の苦勞に感謝と労いの言葉を掛けられ、良好な関係ができている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員との信頼関係を築き、運営に関する、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者は施設長を信頼し、会議への出席は時にはあるが、報告を受け連携が取れており、意見や要望は取り入れており、離職も少ない。また、職員は施設長に気軽に話し、楽しく働く姿を目にする事が出来た。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の有する能力や、努力を最大限に活躍できる勤務状況を把握し、給与水準ややりがいをもち、各自が向上心を持って働ける様、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を積極的に受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、スポーツ大会、相互訪問等の活動を通し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れ親しんだ家を離れて、施設利用に至るまでの心情を十分に理解し、利用者が困っている事、不安な事、何を望まれているか等、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心情を察し、相談から利用に至るまでの困り事、不安な事、要望等に聴く機会をつくり、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、優先的に必要な支援を見極め、親交ある他のサービス利用の紹介等、迅速な対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の暮らしを共にする者同士として、喜怒哀楽を共にし、利用者が今まで培ってきた特技を発揮し、支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの生活歴を重視し、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも立ち寄れる開かれた施設を目指し、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れない様、支援に努めている。	自宅での行事(お墓参り・法事・正月・葬式に参列等)にはできるだけ参加し、一人の人間として家族との関係の継続が出来る支援を行い、入居する事で、関係の再構築が出来た家族もいる。年賀状や暑中見舞いには本人に写真を選んで頂き、親交がある人に出している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共有の座る位置や、場所も考慮し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合える様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や施設の機関紙を送っている。 外でお会いした時は挨拶を交わし、近況を伺い、相談や、支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を尊重し、希望、意向の把握に努めている。言葉を表す事ができない利用者は表情や身体状態を細かく観察して、理解を得る様に努力している。	基本情報を作成し、できる事・できない事を書き込み、利用者の状況の把握に一役買っている。入居の長い人や馴染みの職員により、その人を詳細に理解しており、職員間で共有し思いを汲み取り支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を本人、家族から伺い、それに近いよりよい生活の支援に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中はゆっくり過ごされる方、活発な方、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、その人らしく暮らすためには、本人や家族、必要な関係者と話し合い、お互いの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個人記録の裏表紙に介護計画を貼り、課題やニーズに番号を付け、日々の記録に実施状況が分かる記述方法を実施している。毎月モニタリングを実施し、3ヶ月で介護計画の見直しを行い、利用者とその家族・職員の気付き・書類等から現状に即した、できる事を伸ばしていく事を目標に掲げた計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、特記事項、気づきや工夫を個別記録をしている。申し送り帳を活用し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、生まれるニーズに対応ができる。柔軟な対応、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	居住している地域には、小学校があり、児童の福祉体験や、婦人会のボランティアによる饅頭作り、レクリエーション等、本人が心身の力を発揮しながら参加され、豊かな暮らしを楽しまれている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び、家族等の希望を大切に、入居前のかかりつけ医療機関を、そのまま受診されている。そうする事により、病歴や治療方針等も把握する事ができ、安心して入所生活を送られるよう支援している。	入居以前からのかかりつけ医の受診支援を行っている。今年度はインフルエンザの予防により往診を受ける事が、状況により協力していただいている。また、認知症の専門医・眼科・歯科・整形外科・訪問看護等、必要時には家族の協力を得て支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の朝礼で、必ず申し送りで情報や気づきを職場内の看護職に伝え相談している。定期的に訪問看護師には同様報告し、相談し個々の利用者が適切な受診、看護を受けられる様支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は頻回に訪問し、安心して入院生活ができる様に、又早期に退院ができる様、家族と共に病院関係者との情報交換や相談に努めている。病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医等と話し合っている。事業所の「できること(身体介護)できないこと(医療)を見極め、かかりつけ医とともに協議し今後の変化に備えて、検討や準備は行っている。	昨年毎日の往診を受け、夜間に急変され医療機関に搬送後亡くなられた経験がある。医師が家族に説明を行い、連携を図りながらの支援を実施し、職員間での共有に努めているが、今後の課題であり、事例検討を含めた勉強会を実施し、体制の確立を充実する取り組みを実施する予定である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全職員は消防署指導の元、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	有事の際には昼夜を問わず、緊急連絡網を全職員で召集し、自治会、地域の消防団に協力要請ができるよう地域との協力体制を築いている。	年二回消防署の立会いで消火・避難訓練を実施している。災害マニュアルや救急蘇生法を受講し、職員間で研修しながら共有に努めている。平成18年にスプリンクラーを設置し、危機管理が充実しているが、地震災害・備蓄・持ち出し品リスト等の実施はまだである。	何時如何なる時に発生するか予測できない天災に対する訓練や対応方法を考慮され、備蓄・持ち出し品(個別に必用事項をまとめたファイル等)の準備が望まれる。また、職員の不安材料や危険か所を話し合い具体化されることにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の人格を尊重し、目の悪い人や身体状況に応じた、プライバシーを損ねない優しい声掛けを実施している。個人情報に関する書類は職員の休憩室や事務所で保管し、漏洩に配慮している。	運営推進会議の会議録には実名で入居者の状況を伝えたり、あざみの里の便りでも沢山の写真を掲載している。個人情報の利用目的に実名や写真掲載に関する事を、追加記載され、同意を得られる事を期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望を表し自己決定ができるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念が「時間をかけて見守り、声かけて付き添う。拘束のない介護。個人生活の継続」の元、一人ひとりが、その人らしい暮らしを支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時は、本人の好みの服を選んで頂き、お化粧品やおしゃれを楽しまれる様、支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当者が利用者と一緒に献立を考えて、一緒に調理する事で意欲を引き出し、楽しく食事をしたり、片付けをしている。	母体がスーパーマーケットであり、食に関する意識が高く、「食べる事をたのしむ」を念頭に置き、週二回はお魚の日を取り入れている。利用者の状況に応じ、刻みやミキサーの形でスプーンを小さくし、飲み込みに配慮している。目の悪い人には、食事の内容や位置を説明し、自立に向けて支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は一人ひとりの栄養バランスを考え、水分量は好みの飲み物(コーヒー、ココア、緑茶、牛乳、ジュース)を提供し、習慣に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアをしている。就寝時は義歯を外し、除菌をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄間隔を把握し、日中はトイレ使用での排泄の自立にむけた支援を行い、オムツの使用を減らしている。	日中はトイレでの排泄を基本として、排泄チェックシートで個別パターンを把握し、声掛けや誘導で朝には布パンツ、夜はリハビリパンツとパットで対応している。18時までは水分(1日1,500CCを目指している)を取るよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、個々に応じて、食前にヨーグルトを食べたり、起床時の水分摂取をしたり、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と日中の入浴の時間帯は決まっているが、個々の希望やタイミングに合わせて、夜間でも入浴を楽しめる様支援している。	入浴は週三回支援しており、人工透析の人は一人でも受診前に入浴支援をしている。入浴時には自分で出来る事はして頂き、自立にも取り組んでいる。拒否者には手紙を書く・体重を量りましょう等の声掛けをし、入浴剤で気分を変える等工夫しながら清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、昼寝や就寝時間を個別に対応している。天候がいい日は、寝具を天日干して、シーツ交換し気持ちよく眠れる様、支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬は、薬剤師より薬の目的や副作用、用法や用量について説明してもらい理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせる様、一人ひとり力を活かし、毛糸編み、習字、カラオケ、楽しみごとを気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が晴れの日、戸外に出かけたり、外気浴をしたり、施設周辺を散歩したり、一人ひとりの個々の希望を尊重している。地域の人とも挨拶を交し合い交流ができる様、支援している。	利用者を出来るだけ外気に触れる事への支援に努め、買い物への外出が多い。ホームの入浴日以外は、受診やドライブに出かけている。初市や近くの八重桜の見物を楽しみにしており、気軽に外に出る取り組みを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が個々にお金を持たれており、外出やドライブ時、希望や力に応じ、お金を使って買い物される様、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの希望に応じ、家族や大切な人に、本人自ら電話をかけられる事を支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の中は、利用者にとってプライバシーを損ねない様に、照明や物音にも配慮し、生活感や季節感を採り入れた飾り付けを行い、四季を通して居心地よく過ごされる様な工夫をしている。	玄関のプランターに季節の花を植え、下駄箱の上には綺麗な花を活け、リビングの畳の部分にお雛様を飾り、季節を感じると共に、掃除が行き届き清潔感がある。2時間おきに空気の入れ替えをすることを掲示する等、嫌な匂いや騒音を感じることなく、利用者の体系に考慮して、ソファの下に足乗せのダンボールを置き、居心地が良い。また、衣類の汚れ状態で仕分けし、2台の洗濯機を活用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれる様な場所や、気の合った利用者同士で、ソファの座り、座布団やクッションも個別に対応し、思い思いに過ごされる様な居場所の工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室である為、本人が使い慣れた物置や、好みの物を活かして、居心地よく過ごせる工夫をしている。ご夫婦は同室で、二人の時間を大切に過ごされている。	居室の入り口には近くの小学生が書いた似顔絵を貼り、目印として活用している。利用者にとって大切な品や必要な物(テレビ・位牌・衣装コンテナ・写真・飾り物等)を持ち込み、落ち着いて生活されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、一人ひとりが住み慣れた家のように「できること」「わかること」を活かして安全で自立した生活が送れるよう、工夫している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401780		
法人名	(有)くらはら		
事業所名	グループホームあざみの里 新館		
所在地	長崎県南島原市深江町戊3124-3		
自己評価作成日	平成22年1月30日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権を尊重した理念を揚げ、目に付きやすい所に提示し、常に念頭において実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大野木場小学校の行事に参加したり、町内清掃に参加したりしている。又、散歩時の挨拶等、交流に心掛けている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験の場として、提供している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域推進会議を行い、ホームでの生活状況、健康状況等の報告を行っている。そこでの意見をサービスに反映できる様にしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と連絡を取り、協力関係を築く様に取り組んでいる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加して、学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の所、活用されている利用者はいないが、学ぶ機会があれば、積極的に研修等に参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を用い、説明を行っている。家族の方に理解していただいていると思う。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の方が面会に来られた時や、ケアプラン観覧時などに意見はないかと投げかけており、意見があれば反映している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、職員会議を開き、職員からの意見や提案を聞き、反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握され、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働ける様努められている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に、外部研修への参加推進を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で協力し合って、勉強会や行事への参加の活動を通じて、お互いの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人の話を聴き、不安や要望に答えられる様にして、信頼関係を築ける様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方ともよく話をして、困られている事や不安な事、又要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聴いて、本人と家族等が、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、出来る事はしてもらい、共に作業をしたりして、関係を築いている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時など会話をし、本人と家族との絆を大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望される場所や、今迄に大切にされてきた馴染みの人との関係が途切れない様支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等を把握し、トラブルにならない様、又楽しく暮らせる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向を伺い、その希望に添える様に支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話だけでなく家族の方からも聞き取りを行っている。入所前の事業所に確認連携する事もある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努めている。又、残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人やご家族に意見や要望を聞き、反映できる様に努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況を毎日記録し、状況変化の把握に努め、申し送りノートも活用し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに応じて、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな生活を楽しむことができる様に支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとり、かかりつけの病院を受診されており、受診日には職員が付き添い同行している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が適切な受診や看護を受けられる様に、職場内の看護職や訪問看護師に気付いた情報を伝え、相談し、支援に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時は、定期的にお見舞いに行っている。又、早期発見ができる様に、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や末期のあり方については職員間では話しているが、今のところ重度化した場合や終末期には病院に入院されている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署の協力のもと、心肺蘇生の方法等の訓練や研修を受けている。又、緊急時のマニュアルを作成し、急変や事故発生時には、それに従って対応している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回消防避難訓練を実施し、全職員が避難方法を身に付ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮し言葉かけや対応に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定ができる様に、声かけし支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の言葉や状況に合わせて、希望に添える様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに応じて本人の希望に添った対応をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事を作ったり、利用者と職員と一緒に食事の準備(野菜の皮むき等)や片付け(お盆拭き、テーブル拭き)をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食べる量や水分の量に配慮した支援に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態、本人の力に応じた口腔ケアをしている。口腔内の保清に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握しており、それぞれに応じた援助を行っている。できるだけトイレにての排泄を行える様支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に食物繊維が多い物を使用したり、水分補給に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回入浴の支援をしている。時間帯は一人ひとりの希望やタイミングに合わせている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、その日の状況に応じて安息、入眠の促しなどを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、名前を確認し、個々の能力に応じ、服薬支援を行っている。職員は薬の目的や副作用については理解している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割を持って、力を活かせる様支援している。又、それぞれに合った気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、個別の要望に応じた外出に対応している。家族の面会時に、家族と一緒に出掛けられる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向を伺い、一人ひとりの希望や力に応じて、所持したり使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけられる方もあり、希望されれば代理で電話をかけるなどして支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花を植えたり、エントランスには季節に応じた飾付けを支援している。テレビの音量や廊下や居間等の照明や光、温度に配慮し、居心地よく過ごして頂ける様、心掛けています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテレビを置き、利用者同士が休憩したり、会話できる様になっている。又、居間でお昼寝をされたりしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人、家族と話をし使い慣れたものを持ってきて頂いたり、状態に応じて本人が居心地よく過ごせる様な工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部に表札や表示などを用いている。一人ひとりの安全と機能維持、向上を目指し出来る事はして頂き、自立した生活が送れる様に工夫している。		